ときわ新潟江南

第49号
令和4年12月23日
発行責任者支部長
渋　谷　　徹
編集責任者広報委員長
門　倉　純　一

撮影者　亀田中学校　天野　富夫（平成元年度）

財産

副支部長　東曽野木小学校
川口　由美子（昭和62年度）

「あなたには『人』という財産があるんじゃない？」ミドルリーダー時代，あれこれ悩む私に，勤務校の校長先生が微笑みながらかけてくださったこの一言が今も心に残る。

「困ったときこそ，その財産を生かしなさい。」真っ先に浮かんだのは年度の仲間，ときわ会でつながらせていただいた方々だった。悩み，もがいていた肩の力が抜け，顰め面が溶けたことを今も鮮明に覚えている。

入会してよかったことと問われるときには，ためらうこと無く「人との出会い」と答える。自分からつながらせていただいた方，様々な役割からご縁をいただいた方，立場や悩みを共有するうちに欠かせない存在になった方，そして，勤務する支部や研修を通した出会い。先日の本部発表でも新しい出会いを得た。縦，横，斜め，年齢や性別関係なく，たくさんの出会いがあり，今の自分がある。役割をいただくのも，人のつながりが生み出すものである。

教えを請うことは，答えをもらうことではない。自分で考え，自分で答えを出す。そのために，自分が持ち合わせていない手がかりを示していただくことである。そして懸命に考える。何度でも考える。出会いの数ほど，考える手がかりを得ることができる。その内容は多様だ。教えてくださる方の専門性のみならず，経験や生き方さえも私にとっては貴重な手がかりになる。今も変わらず，たくさんの教えと支えをいただいている。

研修が自ら求めて学ぶことができるスタイルに変更された。内容，講師，企画者，学びの形態。どの視点からアプローチしても，自分磨きの財産を蓄える絶好の機会であろう。

あなたは，どんな財産を手にしているだろうか。